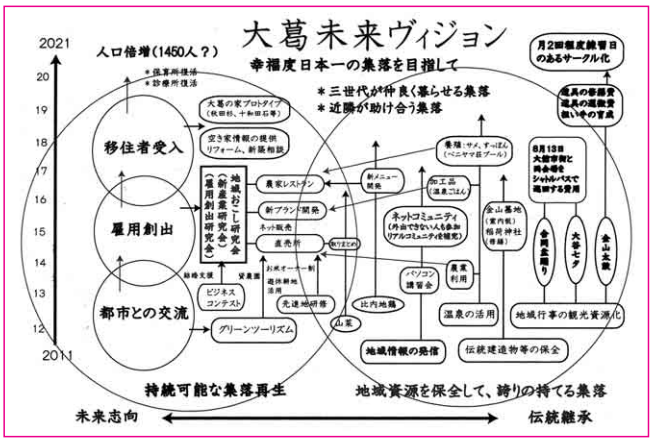

「大葛未来ヴィジョン」は、大葛地区の将来構想を考えるきっかけにするために作ったもの。人口増加と地域活性化に向けた、さまざまな将来展望が盛り込まれています。

地域おこし協力隊ホームページ

大館市地域おこし協力隊　検索

松原　明生（あきお）さん（大葛）　左は妻のアメルさん

Profile

明生さんは、東京都出身の45歳。1級建築士の資格を持ち、建築設計事務所で公共建築物や集合住宅などの設計を手掛けたあとに独立。2008（平成20）年から2年間、国際協力機構（JICA）シニアボランティアとしてチュニジアに赴任し、都市・建築の分野で活動。作詞・作曲やギターの弾き語り、テニスなど趣味は多彩。妻のアメルさん（27歳）は、英、仏、伊、アラビア語を話し、現在は日本語（秋田弁）を猛勉強中。

Q 応募したきっかけは？

チュニジアから帰ってきて、次は何をしようかと考えていたときに、協力隊の募集を見ました。他の自治体でも募集していましたが、大館に決めたのは、東京で行われた説明会で見たPRビデオやチラシから、市だけでなく地区の皆さんの熱意が伝わってきたからです。これもご縁ですね。

Q 着任して約1カ月経ちますが

雪深い所だとは思ってきましたが、雪かきなどしたことが無かったので、思いのほか重労働だなって（笑）。また、歓迎会を開いていただいたときなどに皆さんと話をしたんですが、さまざまな問題意識を持っているかたや何とかしたいと意欲を持っているかたがたくさんいることが分かりました。一緒に頑張ろうという気持ちが強まると同時に、私たちへの期待の大きさを感じましたね。

Q 任期中に取り組みたい活動と、（生活を含めて）今後の抱負をお聞かせください。

地区を維持していくためには人口を増やさなければ成り立ちません。そのためには「都市との交流」を図り、「雇用を創出」して「移住者を受け入れる」という3つのステップで、現在の地区の人口719人を倍増出来るような計画に取り組みます。そして、人口が増えてきたら、空き家情報の提供や新築・リフォームの相談も行いたいですし、私は建築士なので、秋田杉を活用した「大葛の家」というプロトタイプ（原型）を作って、統一感のあるまちなみにしたいと考えています。

また、伝統芸能の継承や地域行事の観光資源化、地区の高齢者を対象にしたインターネット活用のコミュニティづくりにも取り組みたいですね。「幸福度日本一の集落」を目指して積極的に活動し、3年後には、林さんともども定住出来るように頑張ります。

アメルさんにもインタビュー！

Q 赴任して約1カ月経ちますが

チュニジアは雪が降らない国なので、一面の雪景色に感動しています。でも、この寒さはちょっと大変…。出身地のケロアンは大きいにぎやかな都市だったので、大葛地区との大きな違いを感じています。

Q 良いと感じたことは

景色が素晴らしいこと、皆さんがとても親切なことです。朝は「おはよう」と声を掛け合うなど関わりを持とうとしてくれますよね。東京ではそれぞれが独立していて、そういうことがありませんでした。

Q 自身で活動してみたいことは

大学では英語を専攻し、英語教育の資格を持っていますので、小学校で英語を教えたいと思っています。希望があれば、フランス語やイタリア語を教えることも出来ます。また、先日開かれた歓迎会で、皆さんにチュニジア料理クスクスなどを食べていただきましたが、女性向けに料理の講座も開きたいと思っています。

「クスクス」は代表的なチュニジア料理で、小麦粉から作る粒状にしたパスタのこと。アメルさんが作ったクスクスは比内地鶏を具材にしたもので、皆さんに好評でした。

大葛を元気にする人大賞（仮称）

「大葛を元気にする人大賞（仮称）」は、みんなで大葛の将来を考え、やってみたい新たな事業や、地域活性化につながるアイデアを募集しようというもの。

応募対象は大葛地区に住んでいるかたで、各集落の会長などが選考委員になって各賞を選び、景品なども用意したいとのこと。2月中に実施予定だそうです。